

細胞の生物学I勉強会

科目責任者：川 瀬 撰（基盤教育部門）

I. 前 文

第1学年の必修科目である「細胞の生物学I」（1学期）と「細胞の生物学II」（2学期）では、生命の基本単位である細胞について、その基本的な構造と機能を理解するために、細胞生物学の大学初等レベルの世界標準テキストである「Essential細胞生物学」の大部分を学修する。本科目では「細胞の生物学I」の補習を行う。高校生物のリメディアル教育科目という位置付けでもあるため、高校までの学修が不十分な者や生物学に苦手意識のある者に履修を勧める。

II. 受入可能人数

人数は制限しない

III. 担当教員

川 瀬 撰（基盤教育部門）

阿 部 渉（基盤教育部門）

IV. 学習内容

本科目では、「細胞の生物学I」で学修する内容について、履修者が主体的に学び合う場を提供する。教員のサポートの下、履修者は「細胞の生物学I」での学修内容をまとめたり、教え合ったりする。また、「細胞の生物学I」の進捗に合わせて放課後に開講する予定である。

V. 学修の到達目標

本科目及び「細胞の生物学I」により、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に示された以下の学修目標に到達する。

PS-01-01-01 細胞の観察法について概要を理解している。(p. 29)

PS-01-01-02 細胞の全体像を図示できる。(p. 29)

PS-01-01-03 核とリボソーム、小胞体、ゴルジ体、リソソーム等の細胞内膜系、ミトコンドリア、葉緑体、細胞骨格の種類とその構造と機能について概要を理解している。(p. 29)

PS-01-01-05 原核細胞と真核細胞の特徴について理解している。(p. 29)

PS-01-01-08 染色体の構造を理解し、ゲノムと染色体及び遺伝子の構造と関係性、体細胞分裂及び減数分裂における染色体の挙動について理解している。(p. 29)

PS-01-01-09 DNAの複製と修復、DNAからRNAへの転写、タンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現及び調節（セントラルドグマ）について理解している。(p. 29)

PS-01-01-10 染色体分析・DNA配列決定を含むゲノム解析技術について概要を理解している。(p. 29)

PS-01-01-11 ゲノム編集技術とその応用について概要を理解している。(p. 29)

PS-01-01-12 進化の基本的な考え方について理解している。(p. 29)

PS-01-01-13 生物種とその系統関係について理解している。(p. 29)

PS-01-01-14 アミノ酸配列や塩基配列の比較による分子系統樹について概要を理解している。(p. 29)

PS-01-02-27 酵素の機能と調節について理解している。(p. 30)

PS-01-02-29 タンパク質の構造、代謝と調節、生理的意義、主要なアミノ酸の代謝、尿素回路を理解している。(p. 30)

VI. 成績評価の方法・基準

学び合いへの参加度を評価の対象とする。

VII. 教科書・参考図書・A V 資料

毎回、以下を持参すること。

- ・「Essential細胞生物学」
- ・学内ネットワークに接続できるPCまたはタブレット端末

VIII. 質問への対応方法

随時受け付けるが、以下の連絡先を通じてアポイントをとることを勧める。

電話：(直通) 0282-87-2118, (内線) 2071

e-mail：川瀬 (osamuk@dokkyomed.ac.jp), 阿部 (wabe@dokkyomed.ac.jp)

IX. 求められる事前学習, 事後学習およびそれに必要な時間

【事前課題】

細胞の生物学Iの授業を受けた後, 要点や不明点を整理しておく。

必要な時間：15分

X. コアカリ記号・番号

PS-01-01-01, PS-01-01-02, PS-01-01-03, PS-01-01-05, PS-01-01-08, PS-01-01-09, PS-01-01-10,
PS-01-01-11, PS-01-01-12, PS-01-01-13, PS-01-01-14, PS-01-02-27, PS-01-02-29

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

学び合いやそれによる作成物の内容について授業中に評価, 解説する。

Ⅱ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	